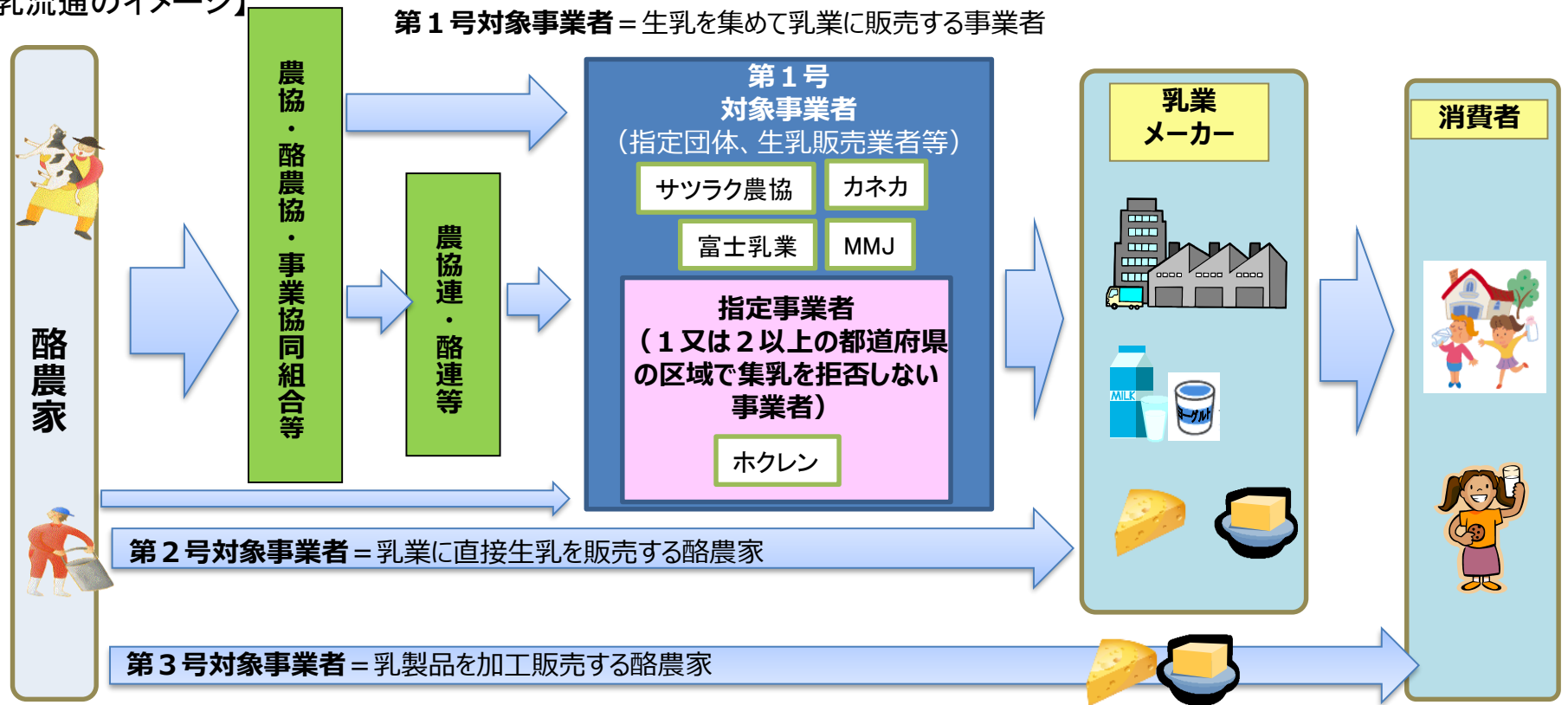


18 改正畜産経営安定法における生乳流通

- 畜産物の需給の安定などを通じた畜産経営の安定等を図ることを目的に、加工原料乳生産者補給金制度が規定されていた暫定措置法を廃止し、畜産経営の安定に関する法律を改正して、恒久的な制度として新たに位置付け。
- 対象事業者(第1号～第3号対象事業者)は、年間販売計画を提出し、基準を満たしていると認められれば、加工に仕向けた量に応じて生産者補給金等が交付。
- 令和5年度(2023年度)は、道内で延べ26事業者に対し、約299万トンの生産者補給金交付対象数量を配分。
- 条件不利地域における集送乳が、今後も安定的かつ確実に行われるよう、集乳を拒まない対象事業者を指定し、集送乳調整金を交付。北海道は、ホクレン農業協同組合連合会を指定事業者として指定。

【生乳流通のイメージ】



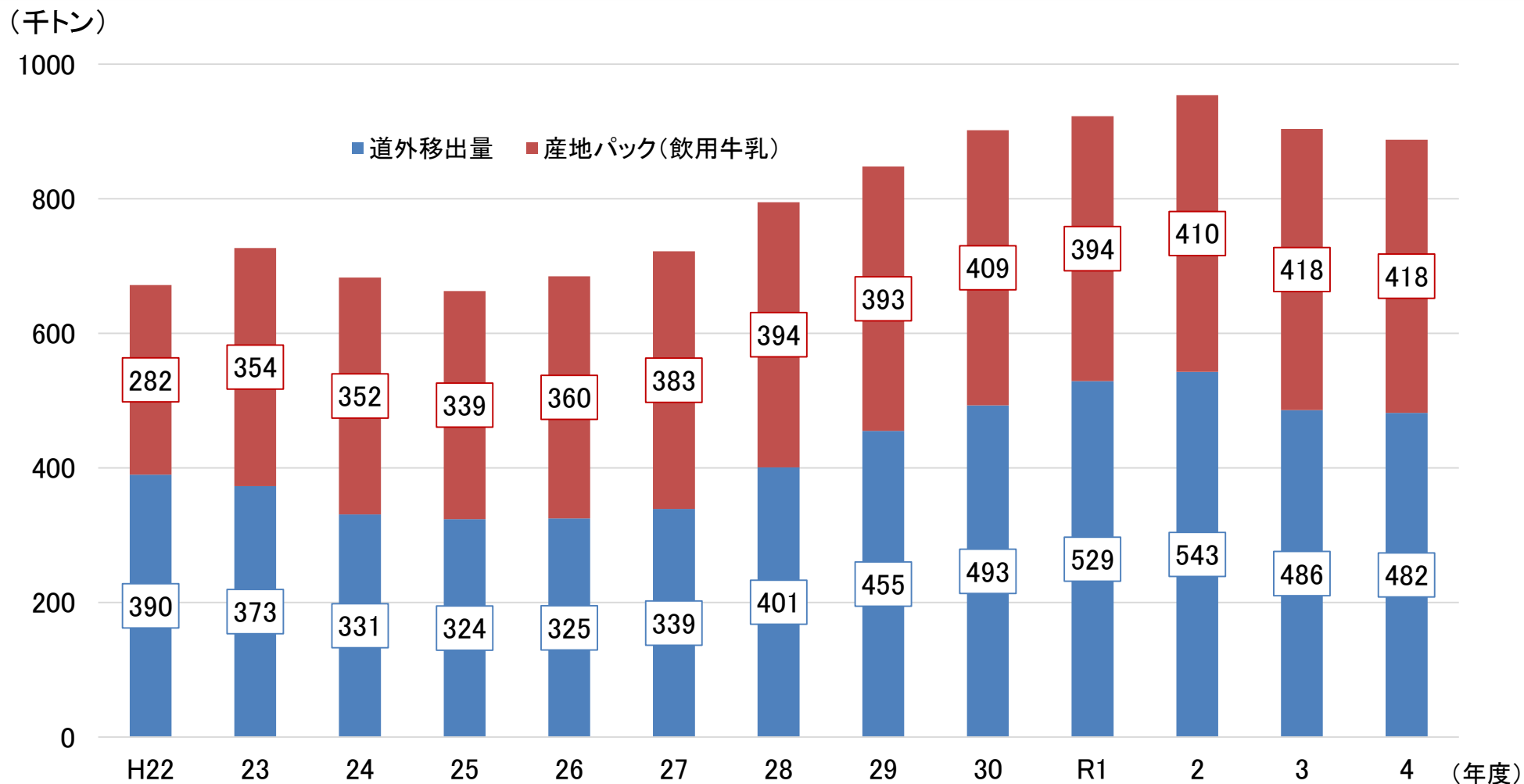
19 道内の乳業工場

- 道内には、数多くの乳業工場(大手4社:18工場、その他:283工場 ※令和4年度(2022年度)末時点)が立地。
- 道東・道北の酪農主産地には、バター、脱脂粉乳、チーズ、生クリーム等の乳製品を製造する大規模工場が立地しており、札幌や旭川、函館、帯広等の都市近郊には飲用牛乳を製造する工場が立地。
- ほくれん丸等による生乳の道外移出も行われており、令和4年度(2022年度)は約35万トン进行移出。



20 生乳の道外移出量及び産地パックの推移

- 都府県の生乳生産量は減少傾向であり、特に飲用向けの需要期である夏季～秋季を中心に、都府県での生乳不足が常態化している。
- こうした都府県の飲用向け需要を補うため、北海道から都府県への生乳や産地パックでの移出が増加し、令和4年度(2022年度)には、生乳・産地パックの合計で約89万トンが移出されている。



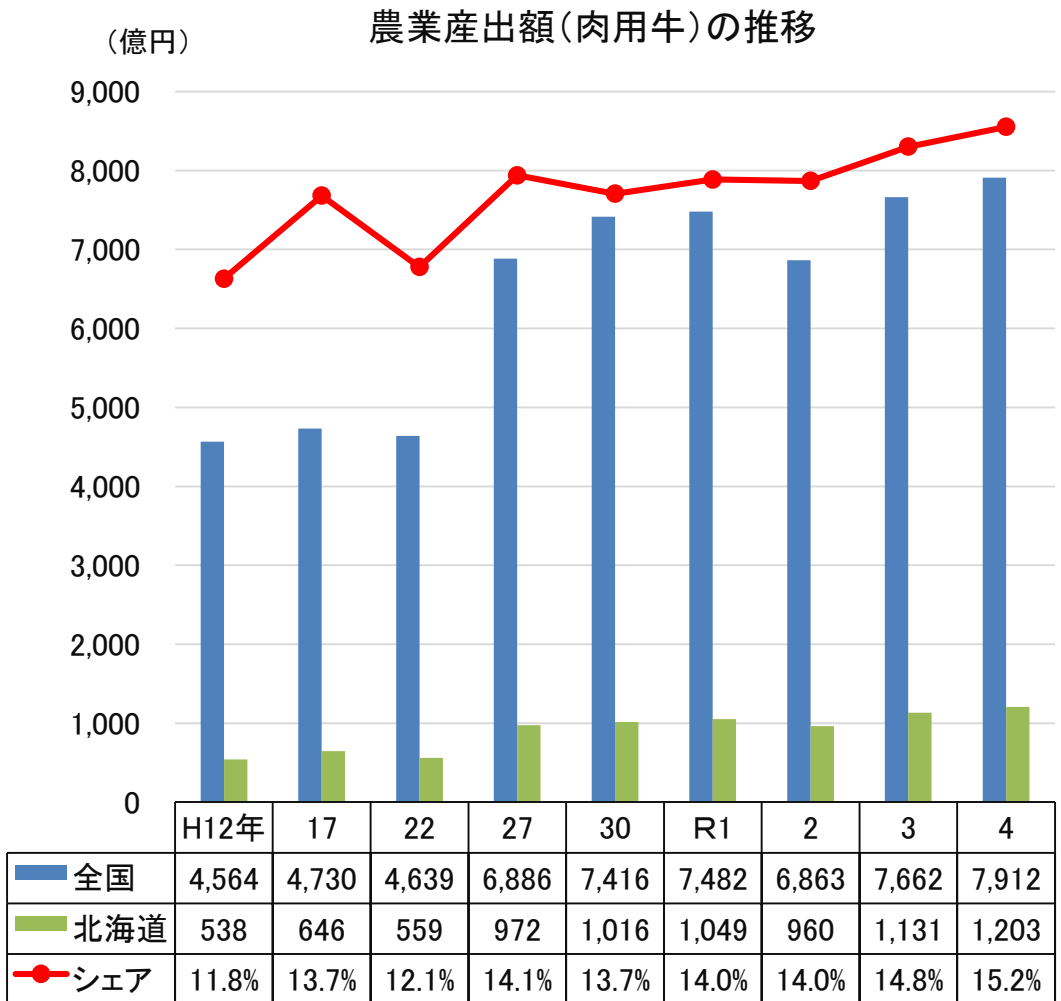
資料:「農林水産省牛乳乳製品統計」(令和4年4月以降は速報値)

注:産地パックは、比重を1.03として算出。

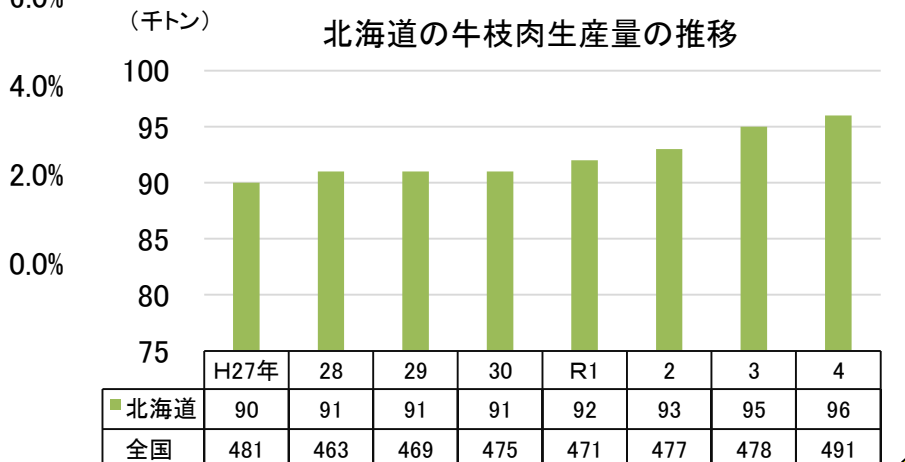
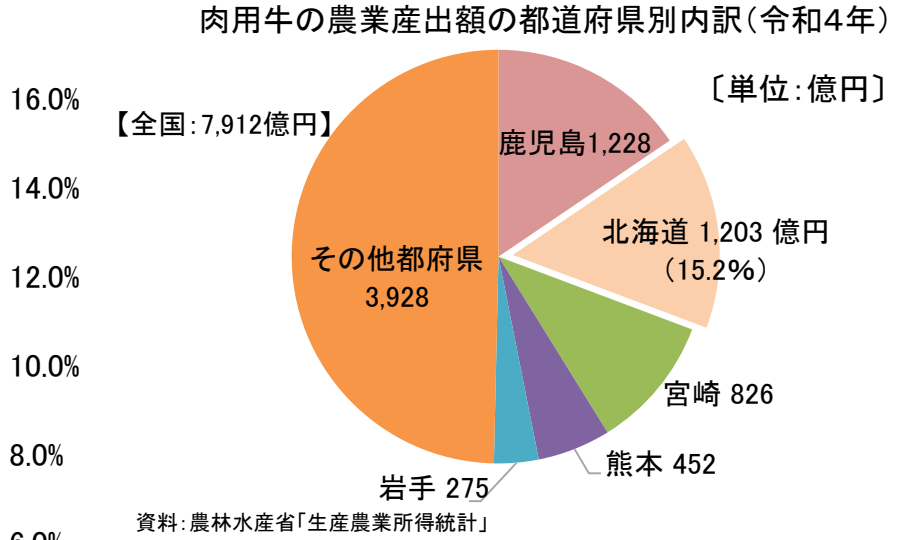
Ⅲ 肉用牛

1 北海道における肉用牛の位置付け

- 令和4年(2022年)の全国の肉用牛の農業産出額7,912億円に対して、北海道は1,203億円で15.2%と全国2位。
- 本道の牛枝肉生産量は、増加傾向にあり、令和4年(2022年)で96千トンで、乳用種が92%を占めている。



資料:農林水産省「生産農業所得統計」

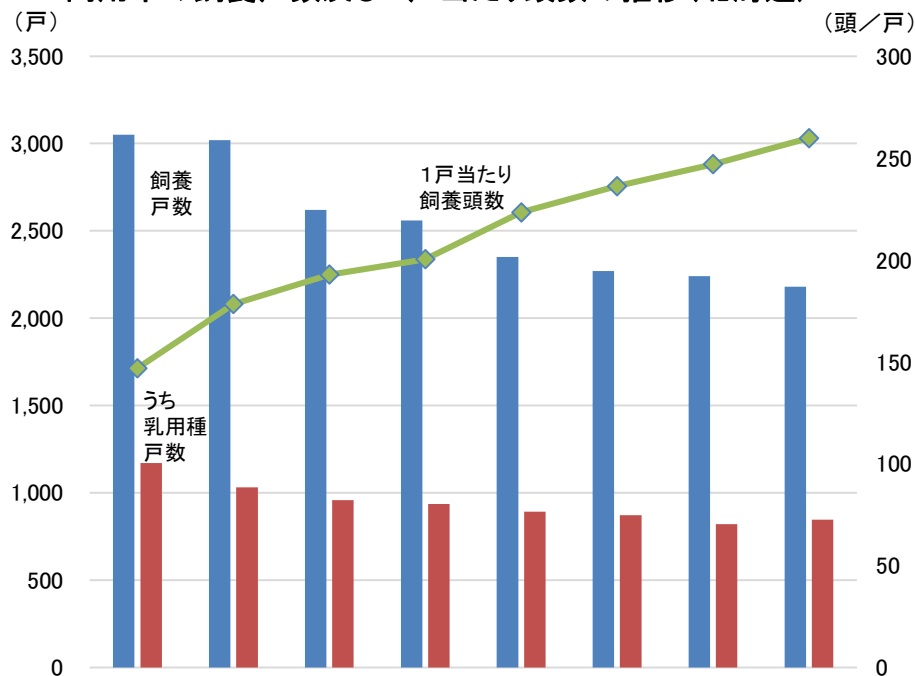


資料:農林水産省「食肉流通統計」

2 肉用牛の飼養動向

- 肉用牛の飼養戸数は、減少傾向にあり、令和5年(2023年)で2,180戸、一方飼養頭数は、増加傾向にあり、566,400頭となっている。
- 1戸当たり飼養頭数は、令和5年(2023年)で259.8頭であり、平成22年(2010年)と比較して1.5倍に増加しており、全国平均69.6頭の3.7倍となっている。
- 品種別頭数では、黒毛和種や交雑種が増加傾向にあるが、ホルスタイン種などの乳用種は減少傾向。

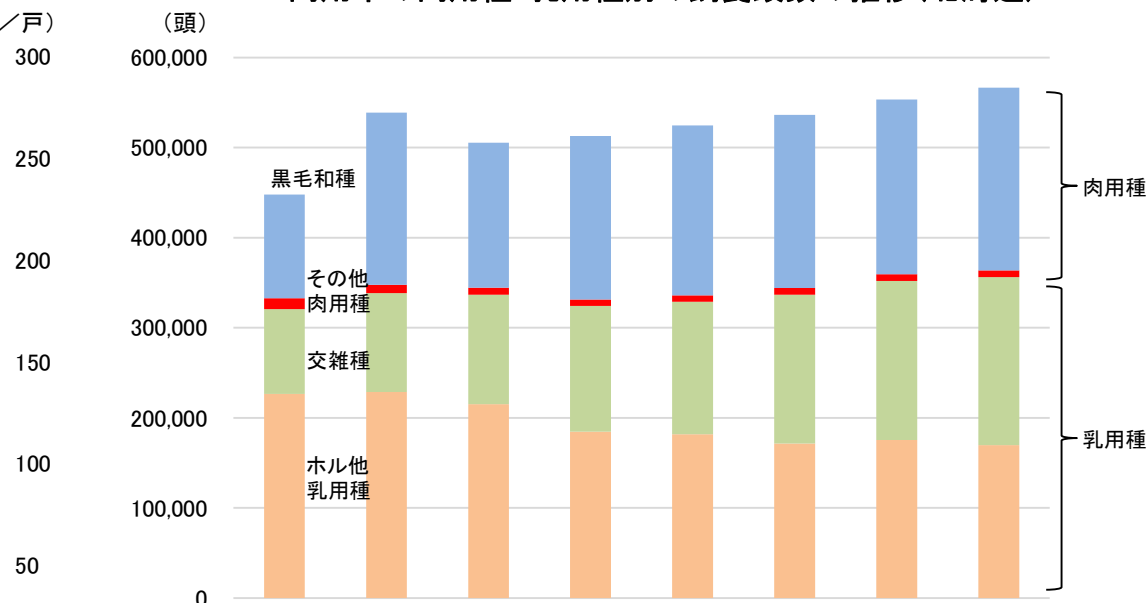
肉用牛の飼養戸数及び1戸当たり頭数の推移(北海道)



区分	H17年	22	27	R1	2	3	4	5
飼養戸数	3,050	3,020	2,620	2,560	2,350	2,270	2,240	2,180
(乳用種戸数)	1,170	1,030	958	935	892	871	821	845
飼養頭数/戸	146.8	178.3	192.8	200.3	223.3	236.2	247.0	259.8

資料:農林水産省「畜産統計」
注:乳用種戸数は、飼養戸数のうち乳用種のある戸数

肉用牛の肉用種・乳用種別の飼養頭数の推移(北海道)



区分	H17年	22	27	R1	2	3	4	5
黒毛和種	115,000	190,900	160,800	181,500	188,700	192,200	193,900	202,900
その他肉用種	12,000	9,400	7,800	7,200	7,300	7,300	7,300	7,200
交雑種	94,100	109,600	121,400	139,600	146,700	165,100	176,500	186,400
ホル他乳用種	226,600	228,700	215,200	184,500	182,000	171,600	175,600	169,900
飼養頭数計	447,700	538,600	505,200	512,800	524,700	536,200	553,300	566,400

資料:農林水産省「畜産統計」
注:ホル他乳用種は、ホルスタイン種などの乳用種。交雑種は乳用種との交雑種。

3 肉用牛の飼養状態別飼養戸数

■ 乳用種(交雑種を含む)の飼養状態別飼養戸数(令和4年(2022年))

○ 育成牛飼養が7.0%、肥育牛飼養が20.0%、その他の飼養(一貫経営等)が73.0%を占めている。

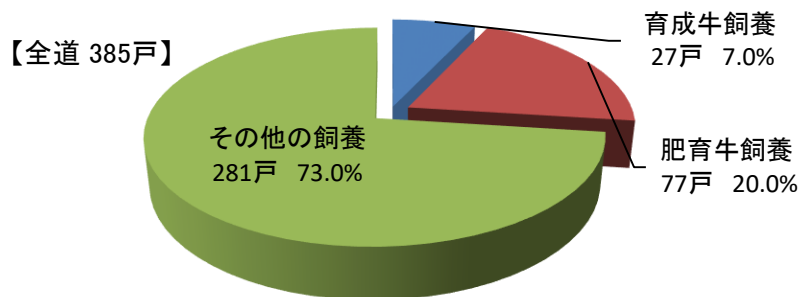
○ 経営形態別の割合では、専業経営が43.4%、複合経営が56.6%となっており、複合経営の内訳では、酪農や畑作との複合が主体となっている。

■ 肉用種の飼養状態別飼養戸数(令和4年(2022年))

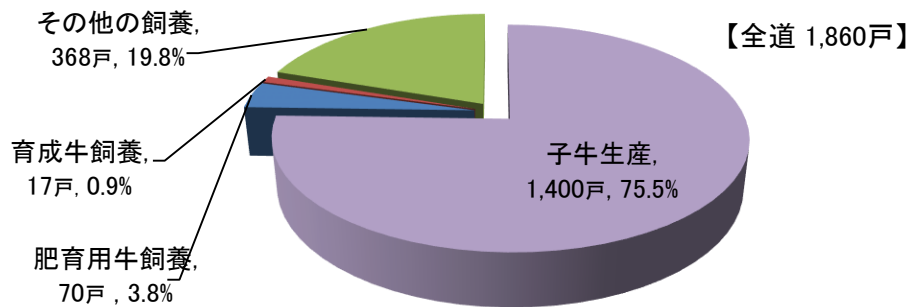
○ 子牛生産が75.5%を占めており、広大な飼料基盤を生かした子取り繁殖経営が主体となっている。

○ 子取り繁殖経営の経営形態別では、専業経営が49.7%、複合経営が50.3%となっている。

乳用種の飼養状態別飼養戸数(令和4年)



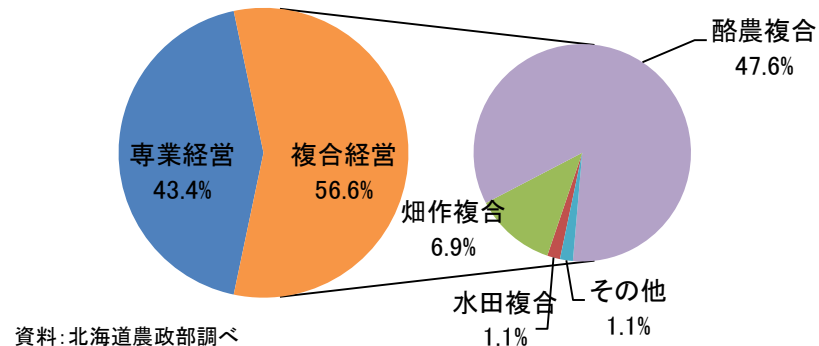
肉用種の飼養状態別飼養戸数(令和4年)



資料:農林水産省「畜産統計」

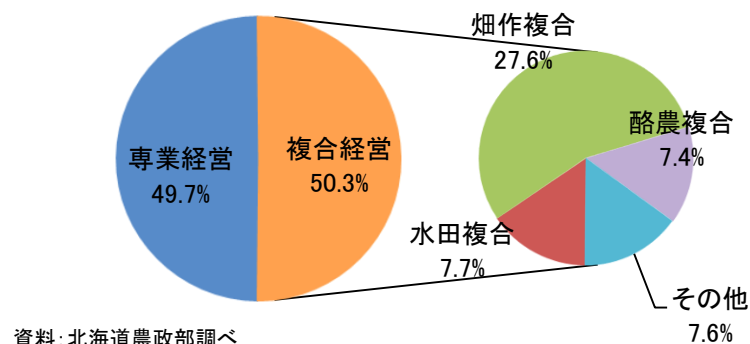
※統計数値は四捨五入されているため、合計と内訳が一致しない場合がある。

【参考】乳用種・交雑種経営の経営形態別飼養戸数割合(令和4年)



資料:北海道農政部調べ

【参考】肉用種のうち子取り繁殖経営の経営形態別飼養戸数割合(令和4年)



資料:北海道農政部調べ